2024 年8月 27 日

各位

上場会社名　DIC株式会社
代表者　代表取締役社長執行役員　池田　尚志
（コード番号　4631）
問合せ先責任者　ｺｰﾎﾟﾚｰﾄｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ部長　小峰　浩毅
（TEL　03-6733-3033）

# 価値共創委員会による「美術館運営」に関する助言並びに それに対する当社取締役会の協議内容と今後の対応についての中間報告

当社は、グループの長期的な企業価値を向上させるために、外部の視点から当社取締役会に対して助言することを目的に、2024 年4月に「価値共創委員会」を設立しました。価値共創委員会においては、当社が所有する DIC 川村記念美術館（所在地：千葉県佐倉市）の運営の在り方（以下「美術館運営」）を初回の審議テーマとし、集中的に議論されてきました。この度、同委員会から当社取締役会に対して、同委員会による審議結果をまとめた助言が提出されましたことを受け、当社取締役会において助言内容を協議しました。その結果、本日開催の取締役会において、今後の「美術館運営」に係る対応について、最終的な結論に向けて以下のとおり検討していくことを決定しましたので、中間報告としてその詳細をお知らせします。

1．美術館運営に関する経営上の課題

(1) 当社は、1990 年に千葉県佐倉市で川村記念美術館（現 DIC 川村記念美術館、以下「美術館」）を開館しました。同美術館は、754 点の美術作品を所蔵しており、そのうち当社が 384 点を保有しています。当社が保有する全作品の資産価値は 2024 年6月末時点の簿価ベースで総額 112 億円になります。また、同美術館の土地及び建物は当社が所有しています。

(2) 同美術館は、地域への社会貢献活動の一環として、また、当社が経営ビジョンのなかでも掲げる「彩りと快適」を象徴する存在のひとつとして長く運営を続けており、ご来館いただいた多くのお客様からも、同美術館の展示内容や在り方について高くご評価いただいています。

(3) 一方で、これまで当社取締役会において同美術館の運営方針に関して審議してまいりましたが、同美術館を保有資産という観点から見た場合、特に資本効率という側面においては必ずしも有効活用されておらず、資本効率の改善を重要な経営課題に掲げる当社として、社会的価値と経済的価値の両面から、美術館運営の位置付けを再検討すべき時期にあります。

(4) こうした課題認識を踏まえ、今般、「美術館運営」が価値共創委員会の審議テーマとして取り上げられました。

2．　価値共創委員会による審議プロセス

(1)　価値共創委員会は、長期的な企業価値を向上させるために、高次かつ広範な見地から企業の社会に対する役割を議論するとともに、外部の視点から取締役会に助言する機関として設立されました。

(2)　同委員会は、独立性・客観性を重視し、社外取締役のみで構成し、テーマに応じてアドバイザーとして社外有識者を招聘します。現在の当社社外取締役4名全員が構成メンバーとなり、うち 1 名が委員長を務めます。

(3)　「美術館運営」の審議にあたっては、同委員会を本年４月から7月の期間において合計６回開催し、うち、第4回委員会においては社外有識者を招聘し、企業経営及び美術館経営の両面からアドバイスを頂きました。また、これとは別の複数の外部機関に、美術館のコスト構造の分析、検討すべき代替案の収支想定に関するアドバイス、保有美術品の潜在的価値に関する評価レポートの作成等の業務を委託し、議論の参考としました。このようなプロセスを経て、美術館の現状を確認し、今後あるべき美術館の運営に関して議論した結果、同委員会から当社取締役会への助言内容が取りまとめられ、2024 年８月９日開催の当社取締役会において提出されました。

3．　価値共創委員会による「美術館運営」に関する助言内容

(1)　価値共創委員会による「美術館運営」に関する助言内容は、大きく以下の３点に集約されます。

(a)　当社が美術館を運営するためには、美術館の存在価値や目的、理念を明確化する必要があり、特に株主に対する説明責任が求められること

(b)　今後の美術館運営に関しては、i. 「現状維持」、ii. 規模を縮小して移転する「ダウンサイズ＆リロケーション」、iii. 「美術館運営の中止」、といった選択肢が考えられること

(c)　現在の当社業績、美術館と当社経営・事業との関係、投資家からの意見等を踏まえると、現状のまま美術館を維持、運営することは難しいと考えられ、また運営コストを考慮すると、現実的に詳細検討すべき案は東京への移転を想定した「ダウンサイズ＆リロケーション」もしくは「美術館運営の中止」を前提とした2つの案となること

(2)　これら助言内容と併せ、価値共創委員会からは、上記(1)-(c)で示した案に関する注意事項を添えたうえで、当社に詳細検討してもらいたい旨、当社取締役会に伝えられました。

4．　当社取締役会の審議内容と今後の対応について

(1)　当社取締役会は、価値共創委員会による助言を真摯に受け止め、美術館の存在価値や目的、理念を改めて協議しました。その結果、以下のとおり美術館運営を継続する意義を明確化しました。

(a)　当社の主力製品である顔料は絵画に、インキは出版に長く用いられてきた材料であり、当社は芸術と文化への貢献とともに発展してきた

(b)　当社にとって美術館運営並びに美術品は以下のとおりと位置付けられる

・発展の歴史を象徴するコーポレートアイデンティティの一部

・経営ビジョンに掲げる「Color（カラー）」を強化し、他社から差別化するもの

・その公開・保存管理・後世への継承に伴う活動が、文化資産を保有する者としての責務であるとともに、当社の価値観・行動指針を体現するもの

(c)　一方で、当社は運営規模、運営方法、資産活用の観点から時代に合わせる形で、美術館運営を見直していく

(d) 美術館運営を見直すにあたってはアイデンティティを象徴する作品群に絞り込み、Color のブランド価値向上による事業の発展、地域や賛同企業等とのパートナーシップによる効率的かつ効果的な文化貢献を目指す

(2) 当社取締役会は、今後の美術館運営に関して最終的な結論には達していないものの、当社として美術館運営を継続する意義に基づき、今後の対応を以下のとおりとすることを決定しました。

(a) 美術館運営の効率化のため、「ダウンサイズ＆リロケーション」を具体的なオプションとして検討し、2024 年 12 月までに結論付けること

(b) 上記を基本的な方針としつつ、「ダウンサイズ＆リロケーション」の実現性、ブランド価値向上の有効性、作品売却による経済価値等を総合的に勘案し、美術館運営の中止の可能性も排除せず、詳細検討を行うこと

(c) 2024 年内に今後の美術館運営について決定した後、速やかに決定内容を実行するため、2025 年 1 月下旬から現美術館を休館すること

(d) 美術館に関する情報開示と透明性の向上のため、当社が保有する主要美術品のリストについて、本資料の別紙のとおり開示すること

5. 美術館の休館予定について

(1) 上記でお伝えのとおり、DIC 川村記念美術館を 2025 年 1 月下旬から休館する予定です。具体的な休館日程につきましては、決まり次第、速やかに当社ウェブサイト並びに DIC 川村記念美術館のウェブサイトにてお知らせします。

(2) 当社の株主優待として、株主の皆様に DIC 川村記念美術館の入館券付絵葉書を謹呈しておりますが、休館後の同入館券の取り扱いにつきましては、決まり次第、株主の皆様には速やかにご案内します。

以　上

別紙

## 当社が保有する主要美術品リスト

主要美術品リスト（五十音順）

| 作家名 | 作品名 | 制作年 |
|---|---|---|
| アルバース、ジョセフ | 正方形讃歌 | 1952 |
| ヴォルス | 赤いザクロ | 1940/41-48 |
| エルンスト、マックス | 入る、出る | 1923 |
| エルンスト、マックス | 石化せる森 | 1927 |
| カルダー、アレクサンダー | T の木 | 1940 |
| カルダー、アレクサンダー | 黒い葉、赤い枝 | 1945 |
| クレメンテ、フランチェスコ | ヘラクレイトスの死に非ず | 1980 |
| ケリー、エルズワース | ブラック・カーヴ | 1994 |
| コーネル、ジョゼフ | キルケとその愛人たち（ドッソ・ドッシ） | 1961-66 |
| コーネル、ジョゼフ | 無題（アンドレ・ブルトン） | 1966 |
| シーガル、ジョージ | ガートルード（ダブル・ポートレイト） | 1972 |
| シャガール、マルク | 赤い太陽 | 1949 |
| シャガール、マルク | ダヴィデ王の夢 | 1966 |
| シャピロ、ジョエル | 無題 | 1988-89 |
| ステラ、フランク | トムリンソン・コート・パーク（第 2 ヴァージョン） | 1959 |
| ステラ、フランク | ポルタゴ侯爵（第 2 ヴァージョン） | 1960 |
| ステラ、フランク | タンパ | 1963 |
| ステラ、フランク | ヒラクラ III | 1968 |
| ステラ、フランク | アカハラシキチョウ 5.5X | 1979 |
| ステラ、フランク | モスポート 4.75X | 1981 |
| ステラ、フランク | 恐れ知らずの愚か者 3.8X | 1985 |
| ステラ、フランク | メリー・クリスマス 3X（第 3 ヴァージョン） | 1987 |
| ステラ、フランク | スフィンクス 1.875X | 1988 |
| ステラ、フランク | リュネヴィル | 1994 |
| スミス、デイヴィッド | ヴォルトリ II | 1962 |
| スミス、デイヴィッド | ヴォルトリ-ボルトン IV | 1962 |
| トゥオンブリー、サイ | 無題 | 1968 |
| トゥオンブリー、サイ | 無題 | 1990 |
| ピカソ、パブロ | シルヴェット | 1954 |
| 藤田 嗣治（レオナール・フジタ） | 二人の友達 | 1929 |

| 作家名 | 作品名 | 制作年 |
|---|---|---|
| ブランクーシ、コンスタンティン | 眠れるミューズ II | 1922/76 |
| フランシス、サム | ワン・オーシャン、ワン・カップ | 1974 |
| ボナール、ピエール | 化粧室の裸婦 | 1907 |
| ポロック、ジャクソン | 緑、黒、黄褐色のコンポジション | 1951 |
| マクロフリン、ジョン | 無題（1953） | 1953 |
| マクロフリン、ジョン | 無題（1956） | 1956 |
| マクロフリン、ジョン | X-1958 | 1958 |
| マクロフリン、ジョン | #16-1960 | 1960 |
| マクロフリン、ジョン | #18-1960 | 1960 |
| マクロフリン、ジョン | #12-1973（対幅） | 1973 |
| マティス、アンリ | 肘掛椅子の裸婦 | 1920 |
| ムーア、ヘンリー | ブロンズの形態 | 1985-86 |
| モネ、クロード | 睡蓮 | 1907 |
| ユトリロ、モーリス | メクス村（ムル=テ=モゼール県） | 1924 |
| ライマン、ロバート | アシスタント | 1990 |
| ラウシェンバーグ、ロバート | 深堀り井戸の噴出<br>（アーバン・バーボン・シリーズ） | 1988 |
| 李 禹煥 | 線より | 1983 |
| 李 禹煥 | 風より | 1986 |
| ルイス、モーリス | ギメル | 1958 |
| ルノワール、ピエール・オーギュスト | 水浴する女 | 1891 |
| ロスコ、マーク | 「壁画 No.1」のためのスケッチ | 1958 |
| ロスコ、マーク | 「壁画 No.4」のためのスケッチ | 1958 |
| ロスコ、マーク | 無題 | 1958 |
| ロスコ、マーク | 壁画スケッチ | 1958 |
| ロスコ、マーク | 壁画スケッチ | 1959 |
| ロスコ、マーク | 壁画 セクション 1 | 1959 |
| ロスコ、マーク | 無題 | 1959 |

（注）上記を含め当社は 384 点の美術作品を保有していますが、これらの取り扱いについては、美術館運営について今後詳細検討を行う中で、併せて検討していきます。

以 上